

とうとうたたりたりら、たたりあかりらりとう

〔三下り〕 所千代ところちよまで翁草おきなぐさ、菊きくの四季咲しきざきき四季三番しきさんぱ、可愛かはいらしきの姫小松ひめこまつ、木蔭こかげに遊ぶ鶴亀つるかめも、

座元ざもとの名なにし生おひ茂しげる、竹たけは櫓やぐらの幕まくの紋もん

御ご鼻ひ負い頼きたのみ揚げ幕まくやとんと居あなりに此この舞台ぶたい、われ等らも千秋せんしゅうさむらはふ

凡およそ千年せんねんの縁えんは二つ枕ふたまくらに結むすんだり、又万代またばんだいをかけし契ちぎりは、水みづも漏もらさぬ中川なかがはに、橋はしを渡わたすは何なんと言いふたらよかるやら

つい言いて言いやうに、鳴なるは瀧たきの水みづ絶たえず逢あふ瀬せを松まつの葉はの、色いろは変かはらじ唯ただいつまでも

しやほんになしよの翁おきなのあだつきは、添そふも千歳せんざい媒人なかうどして、心こころのたけをひろばかり、明あかして

結むすぶ妹背山いもせやま、扱さてもよいよい仲同士なかどうしは、天下泰平てんかたいへい国土安穩こくどあんをん、今日けふの御祈祷ごぎとうなり

おうさゑおうさゑ喜よろこびありや有明ありあけの、月つきの出潮でしほに青木あをきが原はらの浪なみの声々こゑごゑ、うつや鼓つづみの松吹まつふく

風かぜも、さつきつとしてすむなりすむなり、音おとも住吉すみよしの幾代経いくよへぬらん

夜遊やいうの舞楽ぶがくに拍子ひやうしを揃そろへて、足拍子あしびやうし揃そろへて、時ときも夜明よあけの鳥飛からすび、袖そでをかへして面白おもしろや

在原ありはらや高天たかまが原はらに住吉すみよしの、四社ししやの御前ごぜんで扇あふぎを拾ひろふた、主ぬしにあふぎの辻占つじうらは、

そりやほんかいな、逢あふと嬉うれししんぞこちや嬉うれし

四社ししやの御田おんだの苗代水なはしろみづに、結むすぶ縁えんの種たねおろし、そりやほんかいな、結むすぶも嬉うれししんぞこちや嬉うれし

サア住吉すみよし様の岸きしの姫松目出度ひめまつめでさよ、実けにさまざまの舞まひの曲きょく、指す腕さかひには悪魔あくまを払はらひ、蔵くらむる

手てには寿福じゆふくを抱いだき、千秋楽せんしゅうらくには民たみを撫なで、万歳楽まんざいらくこそ目出度めでたけれ